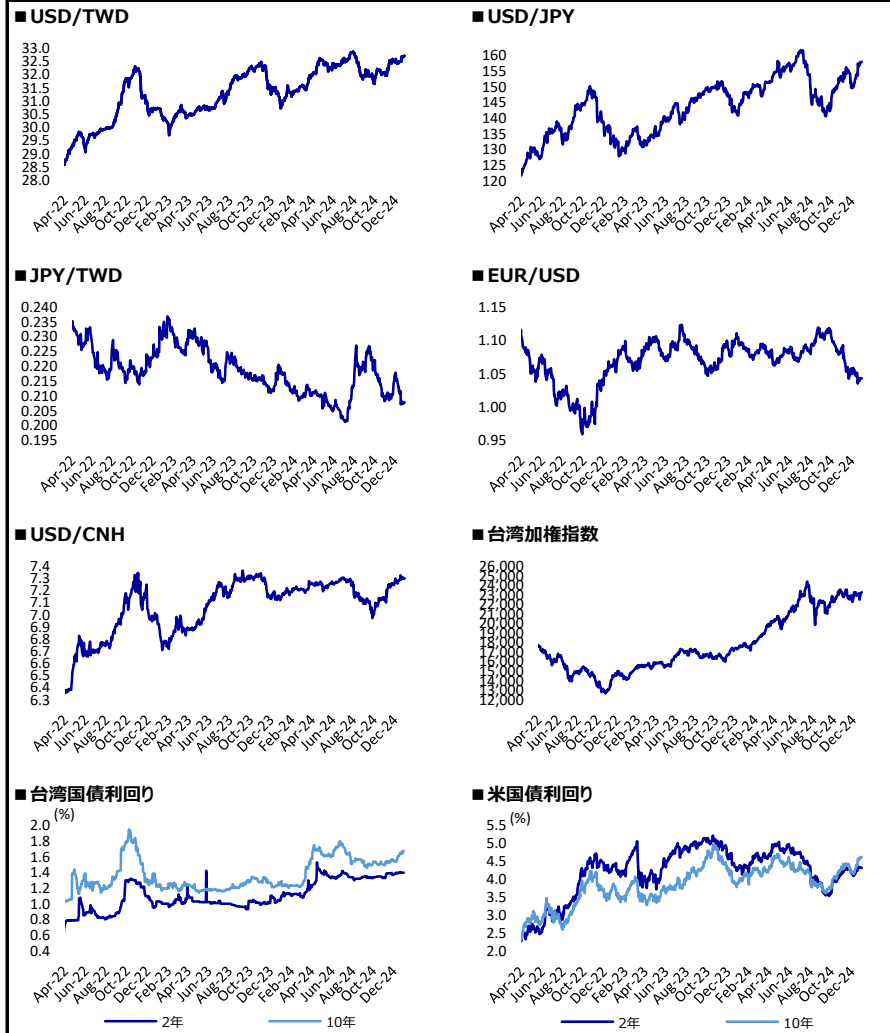


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初12/23は32.630でオープン後、台湾株が大幅に上昇したものの、外資による資金流出が継続し、一時32.725まで上昇。その後、輸出企業によるドル売りが見られ、最終的に32.688でクローズ。12/24は、米金利の上昇に伴う送金フローが見られ、一時32.717まで上昇。午後に入ると、外資による資金流入や輸出企業によるドル売りが散見され、台湾ドルは上昇に転じた。12/25は、朝方を通して外資による資金流出フローが見られ、一時32.70まで上昇。午後、外資による資金流入や輸出企業によるドル売りが見られ、ドル/台湾ドルは一時32.640まで下落。最終的に32.668でクローズ。12/26、米金利が上昇したことに加え、政治の混乱への懸念から韓国ウォンが下落したことを受け、32.70近辺まで上昇。12/27は、米金利の高止まりで、ドル買いが優勢となったほか、輸入企業によるドル買いも見られ、一時32.750まで上昇。最終的には前週比0.09%ドル高台湾ドル安の32.720で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は737.3億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初12/23は156.42でオープン後、海外のクリスマス休暇を前に、動意に欠ける展開が続く、156円台半ばで揉み合いの推移。海外時間に入ると、米経済指標が予想を上回ったことに加え、米下院でつなぎ予算案が可決されたため、政府機関の閉鎖不安が後退したことを受け、一時157.25まで上昇。12/24は、海外のクリスマス休暇を前に、動意に欠ける展開が続く、157円台前半で揉み合いの推移。加藤財務相の円安牽制発言が聞かれたものの、ドル/円は反応薄。12/25は、クリスマス休場の中で、ドル/円は157円台前半でレンジ推移。その後、植田日銀総裁による講演で追加利上げに対する新たな示唆はなかったことから、ドル円は上値を伸ばし一時157.50まで上昇。最終的に157.05でクローズ。12/26は、トランプ次期政権が掲げる高関税政策でインフレが再燃することへの警戒感から、米10年債利回りが上昇、ドル円も上値を伸ばし一時158.09まで買われた。12/27は、米金利の上昇とともに、ドル買いの需要が強く157.96まで上昇した。その後、加藤財務相の円安けん制発言が聞かれたものの、ドル/円は動意薄の展開。最終的には前週比0.90%ドル高円安の157.84で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.600-32.800
今週のドル/台湾ドルは揉み合いの推移を見込む。米金利が上昇する中、グローバルにドル高が進行したものの、年末を控え、輸出企業によるドル売りが見られた場合、揉み合いの推移となるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：156.00-159.00
今週のドル/円は底値の堅い推移を見込む。米金利が上昇する中、グローバルにドル高が進行したものの、加藤財務相の円安けん制発言を受け、円売りが一服するだろう。また、年末年始を控え、方向感の出にくい展開となる予想。

今週の予定

12/30 (MON)	日12月製造業PMI
12/31 (TUE)	
1/1 (WED)	
1/2 (THU)	米12月製造業PMI、台湾12月製造業PMI
1/3 (FRI)	アトランタ連銀Q4 GDP NOW

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。